



「LGBT×VR ～レズビアンオフィス編～」は、レズビアン当事者の視点で、職場の居心地の悪さや良さを体感することを通じて、日頃の自分の言動を振り返るプログラムです。ルミエール・ジャパン・アワード2018 優秀作品賞受賞



VRゴーグルで視聴できる映像「私をどうするのですか?」では、認知症の方が見る世界を体験できます。車から降車しているにもかかわらず、ビルの屋上から飛び降りているように感じたり、記憶の混乱により拒否反応を示してしまうことをVRを通じて理解できます



JALの

ダイバーシティ & インクルージョン

JALグループは、トップコミットメントとして2014年に「ダイバーシティ宣言」を発し、誰もが生き生きと活躍できる会社を目指しています。

▲ 第一部「Diversity×VR ～まずは体験してみよう～」では、参加者全員がVRゴーグルを装着し、認知症の方やLGBT当事者への理解を深める映像を体験しました

多様性への新たな学びを！ 「JAL Diversity Day 2019」を開催



ダイバーシティ&インクルージョンは「自分ごと」

2019年6月、ダイバーシティを自分ごととして捉え、理解を深めるための社内イベント「JAL Diversity Day 2019」を開催しました。当日は第一部から第三部の三部構成で実施し、約150名の社員が参加しました。

VRで認知症などを体験
ダイバーシティへの理解を
深める機会に

第一部の「Diversity×VR ～まずは体験してみよう～」では、(株)シルバードの大谷 匠氏を講師に招き、仮想現実を体験できるVR（バーチャルリアリティ）を用いて、認知症、発達障がい、LGBTなど多様な方の「一人称体験」をしました。当事者の視点で体験することで、コミュニケーションのすれ違いや特定の属性に対するアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）に気づき、他人ごとと思いがちなダイバーシティについて、誰にでも該当しうる自分ごととして考えるきっかけとなりました。また、誰もが力を発揮できるよう、お互いの多様性を受け入れ、安心して発言できる雰囲気（心理的安全性）が必要であることについても理解を深めることができました。

継続的な取り組みを通じて、
一人一人が生き生きと働ける
会社へ

第二部の「Diversity×Life Event」WorkもLifeも充実させよう」では、育児、介護、健康など、誰もが直面する可能性のあるライフイベントへの向き合い方を経験者とともに考え、学ぶ座談会を行いました。そして第三部の「Sexual Diversity Transgender当事者と語る」では、(株)Gipit代表の井上 健斗氏にご講演いただきました。性自認や性的指向、トランスジェンダーについて、当事者の生の声に耳を傾け、ともに語り合うことで、社員の多様性を理解する時間となりました。

今後もJALグループは、継続的にダイバーシティへの理解を深める機会を設けることで、より多くの社員が気づきを得られる機会を増やしていきます。そして、社員一人一人を尊重する風土をつくるとともに、多様な個性が生み出すアイデアにより、新たな価値を創造していきます。

日本初「JAL LGBT ALLYチャーター」を運航しました！

一企業としての取り組みだけでなく、より多くの皆さまにLGBTを支援する運動を知っていただき、社会全体での理解促進につなげるべく、ピンクドット沖縄^{※1}の開催に合わせて、2019年8月31日に日本で初めて「JAL LGBT ALLYチャーター」を運航しました。当事者や、理解促進への取り組みを行う企業担当者をはじめとするALLY（理解者・支援者）など90名の方にご搭乗いただきました。機内では「オリジナルレインボー弁当」をお配りしたり、当事者であるシンガーソングライターの清貴さんが歌を披露されたりしました。ご搭乗された方からは、「一体感のあるフライトに感動した」という声を多くいただきました。

任意団体「work with Pride」が策定する「PRIDE指標」^{※2}において、本年は「JAL LGBT ALLYチャーター」が、社会全体への理解促進の機会を提供し、社内外のALLY拡大に貢献したとの評価をいただき、2016年に続き2度目の「ベストプラクティス」^{※3}も受賞しました。



※1: LGBTなどのセクシャルマイノリティへの理解を深め、「すべての人がより生きやすい社会」を目指すイベント。

※2: セクシャルマイノリティに関するダイバーシティ・マネジメントの促進と定着を支援する任意団体「work with Pride」が2016年に策定した指標。「ゴールド」「シルバー」「ブロンズ」の3段階で評価される。

※3: PRIDE指標運営委員会が、特に優れていると判断した事項につき、ベストプラクティスとして表彰される。

▲ 第二部「介護に備える」のブースでは、小規模の座談会形式で経験者から話を聞いたり、参加者同士で情報交換できる機会をつくりました



▲ 第三部の井上 健斗氏による講演を聞いた社員からは「話を聞くうちに、仲間や部下など身近な人からカミングアウトされたら、相手の全てを受け入れてあげようと思った」と前向きな声も